



平成27年度南丹美術工芸パートナーズクール事業

高校や大学等と連携し、児童がより専門的な指導を受けて作品を制作することを通して、美術に関する表現の技能の向上を図るとともに、美術工芸への興味・関心を高め、文化の継承と発展への基礎を培うことを目指して、南丹美術工芸パートナーズクール事業を開催しています。

南丹市立八木西小学校 & 京都美術工芸大学

八木西小学校では、9月8日（火）に4年生と6年生の計51名が京都美術工芸大学の8名の学生さんから、それぞれ絵付けと木工（飾り時計）を教えていただきました。

4年生は、^{ぐす}とと呼ばれる濃い灰色をした顔料を使ったお皿の絵付けに挑戦しました。筆や和紙で作ったスタンプを使って文字・イラストを思い思いに描きました。

児童は「初めてなので難しかったけれど、うまくできてよかった。」と仕上がりに満足している様子でした。



6年生はヒノキなどの小さな木片を使った飾り時計を制作しました。卒業を控えているので、木片に寄せ書きをしたり校内で拾った木の实を付けたりするなど、小学校の思い出がたくさん詰まったものに仕上がるよう学生の皆さんがアドバイスをしてくださいました。

時折、「おもしろいデザインやな!」「ボンドはこうしたら塗りやすいよ。」と励ましやアドバイスをもらいながら、何度も木片を組み変えて自分の考えたデザインに近づけていきました。



京丹波町立竹野小学校 & 京都美術工芸大学

竹野小学校は4・5年生の計12名がスリップウェアを使った陶芸作品作りに挑戦しました。スリップウェアとは、18世紀頃にイギリスで盛んに行われていた技法です。生乾きのお皿などにスリップ（水と粘土を混ぜたもの）をかけ、異なる色のスリップをスポイトで垂らして櫛状の道具などで引っかくことでデザインしていくものです。

学生さんは「最初はどうかかなという迷いがあるように見えたが、やり始めると私たちが思いもよらないアイデアや絵柄を描いていてすごいと思った。」と話し、児童からも「大学生に優しく模様の描き方を教えてもらってうれしかった。」「焼き上がりが楽しみ。また機会があったらやってみたい。」との感想が聞かれました。それぞれの個性が光る作品づくりができたようです。



この2回の取組を終えた学生さんから「小学生は創意工夫しながら楽しむこともできており、教える立場でありながらも一緒に楽しむことができた。いきいきした作品の仕上がりを見て、自分もものづくりで楽しむことを忘れないようにしようと思った。」「小学生ならではのアイデアと一緒に体験することで楽しく作業ができ、創作の良い刺激になった。この経験をこれからの創作に活かしていきたい。」との声を聞かせていただき、小学生・大学生ともに楽しく学べ充実した取組になりました。